

# 適正な石灰資材施用で直播てんさいの収量UP

～土壌診断に基づく土壌化学性改善効果の検証～

対象：京極町北岡・中野地域 3戸 活動年次：令和3～5年度 本所地域第1係

## 活動の背景

### 地域の現状

農家戸数の減少  
平均経営面積の増加



省力化が必要



直播率増加！



直播てんさいの安定生産が求められる

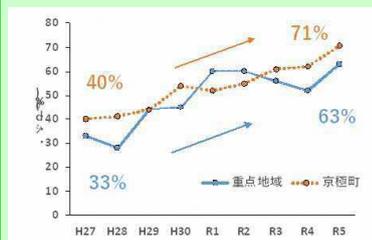


図1 直播率(%)の推移

### 問題点

- ・土壌に起因する酸性障害等による初期生育不良の発生。出芽本数不足。
- ・町内の平均反収 (5.0t/10 : R3)は、管内の平均反収 (5.4t/10a : R3)を下回る。



生育良

生育不良

写真1 初期生育不良

### 活動のねらい

直播てんさいの安定生産と収量向上に向けて

#### 【土壌pH改善】

- ・土壌採取およびpH測定
- ・適正な石灰資材施用量の提案
- ・春の個別巡回での提案

#### 【pH以外の低収要因の解明】

- ・適切な管理作業の実施確認
- ・春の個別巡回での情報提供

## 活動と成果のポイント

### 1 土壌pHの矯正

- ・ほ場を細かく分割し、土壌を採取後、土壌pHを測定
- ・測定値をもとに、土壌pHマップを作成
- ・個別巡回で農業者にマップを提示

pHの分布を色分け  
マッピングし、  
個別に提供！！

#### 【成果1】

- ・土壌pHマップの提示により、ほ場の低pH部分が農業者に理解された。



写真2 土壌採取



図2 土壌pHマップ

## 2 適切な石灰資材施要量の提案

- ・ 土壌pHの測定結果をもとに適切な石灰資材施用量を算出
- ・ 個別巡回で、農業者に施用量を提案

### 【成果2】

- ・ 提案後、ほ場の低pH部分に重点的に石灰資材が施用された。

道路側だけ石灰資材を入れよう

ほ場の道路側のpHが低いです



写真3 個別巡回で提案

## 3 春の個別巡回で情報提供と提案

- ・ は種前の土壌pHを調査
- ・ は種日、は種深度、栽植密度、土壌の碎土性（は種前）を調査
- ・ 調査結果を農業者に報告

### 【成果3】

- ・ 定期的な石灰資材の施用により、は種前の土壌pHは、目標の5.8以上を確保できた。



写真4 は種深度調査

表1 は種前土壌pH

農業者	石灰*1	R5春pH
D	120kg	6.5
	120kg	6.4
E	110kg	6.1
	110kg	6.5
F	なし	6.6
	なし	6.8

\*1 石灰施用量 kg/10a

## 4 個別巡回(12月)、冬期研修会(1月)で調査結果の報告と提案

- ・ 講習会で調査結果の報告と次年度へ向けた改善提案
- ・ 重点農業者との意見交換

### 【成果4】

- ・ てんさいの健全な生育確保のため、土壌pH矯正の重要性が農業者に理解された。

土壌診断は欠かさず実施しましょう！



写真5 冬期研修会(R6.1月)

定期的な石灰資材施用は種前pHの確保  
適正pHの維持  
初期生育の確保

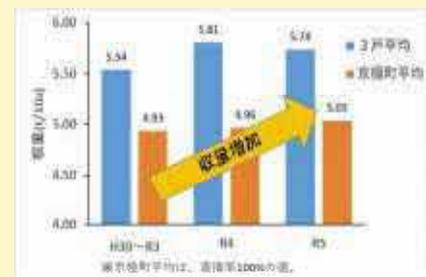


図3 反収の推移

## 今後の対応

引き続き、直播てんさいは種前の土壌pHを計測し、農業者に情報提供する。積極的な石灰資材の施用により、地域の土壌pHは高い傾向となっている。近年増加しているばれいしょそうか病対策として、土壌pHを考慮しながら石灰資材施用量を決めるよう提案する。

# 良質な粗飼料の確保とコスト低減

～肥料銘柄の見直しにより経営費を削減～

対象：JAようてい管内酪農家43戸 活動期間：令和5年度 本所地域一・二・四係

## 活動の背景

＜酪農家の現状＞  
飼料費、肥料費などの  
価格高騰による経営圧迫



＜コスト低減対策＞  
飼料費→自給飼料の栄養価向上  
肥料費→低コスト肥料の利用  
土壌診断に基づく施肥

## 活動と成果のポイント

### 1 低コスト肥料の利用

肥料コストを抑えるため、塩化カリを使用した肥料と、慣行肥料を使用した試験ほを設置した（表1）。

表1 試験ほの肥料概要

処理	施肥量 (kg/10a)	成分量(kg/10a)			備考
		N	P	K	
慣行区	80	104	144	8	BB肥料
試験区	60	108	126	42	BB肥料 塩化カリ使用

### ＜結果＞

#### ○収量

現物、乾物、TDNいずれも試験区が上回った（図1）。

#### ○経済性

現物価格は試験区が上回り、肥料費は試験区が下回った結果、差額は試験区が上回った（図2）。

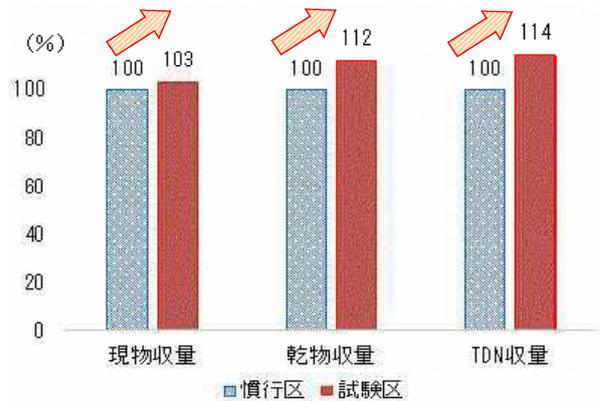


図1 収量の比較（慣行区対比）

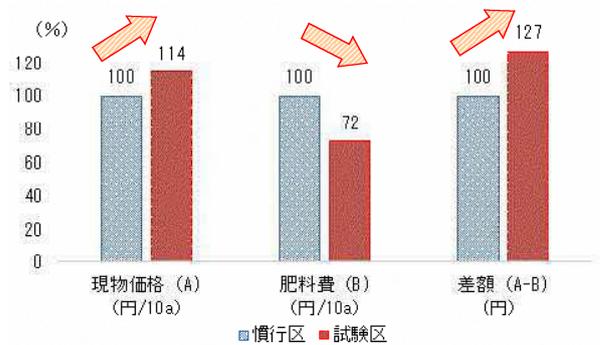


図2 経済性の比較（慣行区対比）

※現物価格はTDNを45円/kgとして換算  
※肥料価格はR5JAようてい当年価格で計上  
※その他費用（種子代、燃料費など）は、考慮していない

### ＜農業者の声＞

- ・コスト低減できるなら、今後の使用を検討したい。
- ・施肥量が少ないので、肥料の補給回数が少なく、省力化になる。また、施肥のばらつきを低減できる可能性がありそうなので、期待できる。

### ＜使用に当たっての注意点＞

カリ成分が少ない肥料のため、土壌診断を実施し、土壌中のカリ含有量を確認することが重要である。

## 2 土壌診断結果に基づく施肥改善

今年度実施する、石灰資材施用ほ場や自力更新草地ほ場の土壌診断を実施し、診断結果から肥料銘柄の提案を行った（図3）。

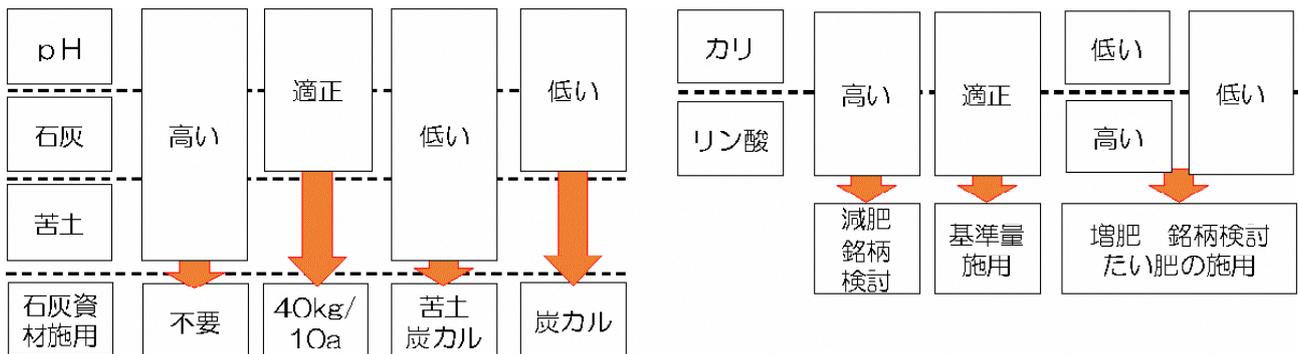


図3 土壌診断結果による肥料銘柄提案

### <結果>

- ・土壌診断結果からリン酸や苦土の蓄積確認！
- ・リン酸資材を施用しない。
- ・石灰資材を苦土炭カルから炭カルへ変更。

### <農業者の声>

- ・土壌診断の実施により、少しでも肥料費が安くなるのは助かる。
- ・散布する肥料が少ないと作業が省略できて楽になる。

## 3 牧草早期刈取への取り組み

過去2年間、牧草収穫が遅れ粗飼料品質が低下していた農業者に対し、全ほ場の植生調査を実施し、刈取の時期や順番などを提案した（表2）。

### <結果>

- ・例年より早く収穫することができた。

### <農業者の声>

- ・適期に刈った牧草は、牛が良く食べた。
- ・来年以降も早く収穫できるよう準備したい。

表2 植生調査結果からのほ場特性（抜粋）

ほ場番号	主要牧草		ハル ガヤ	出穂の 早晚	収量		更新の 検討
	TY	OG			量	栄養	
2	○			中	少	中	不要
3	○			遅	多	高	不要
4	○			中	中	やや高	不要
5	○			中	中	やや高	不要
6	○			中	中	やや高	不要
7	○	○		中	多	やや高	許容
8	○	○		中	多	やや高	許容
9		○	極多	早	少	極低	要更新
10		○	多	やや早	少	やや低	準更新
11		○	極多	早	極少	極低	要更新

### <成果のポイント>

- 低コスト肥料の利用
  - ・肥料費が安くなった。
  - ・収量性が良かったため、低コストでも自給飼料の栄養価は向上した。
- 土壌診断結果に基づく施肥改善
  - ・土壌診断の実施により、肥料費のコスト低減が可能になる場合がある。
- 牧草早期刈取への取り組み
  - ・植生調査結果から主要草種や雑草割合がわかり、適期収穫に取り組めた。
  - ・JAや町など関係機関と連携して支援したことで、草地更新など一貫した提案ができた。

## 今後の対応

取り組みは実践されたため、今後は一般活動で対応する。

# 水稻低コスト肥料の導入検討!

～低コスト肥料導入で肥料高騰対策～

対象：蘭越町水上地域 4 戸 活動期間：令和 3～7 年度

本所地域第二係

## 活動の背景

### ・活動の背景

農業資材の高騰が続く中、作物生産の要となる肥料高騰が続いている。特に蘭越町では水稻を基幹とした農業が主の地域であるため、水稻肥料のコスト低減が直近の課題である。そこで低コスト肥料を使用した水稻栽培の提案を行った。

### ○現場の声

- ・「肥料高騰でコストが上昇し、収益が下がる!」

### ○必要条件

- ・肥料コストが低減すること。
- ・生育が慣行肥料と同等であること。
- ・収量確保が可能であること。
- ・食味(蛋白質含有率)が低下しないこと。

### 提 案

#### 低コスト肥料の検討!!

- ・窒素成分が高く、散布量が少なくて済む。
- ・肥料費の削減につながる。
- ・地域で使用可能な銘柄か?

## 活動と成果のポイント

### 1 現地の要望把握と試験栽培

令和 4 年秋に重点地域巡回時に、農家から「肥料高騰で経営が厳しくなる」との声があった。そこで、急遽低コスト肥料の調査、肥料メーカーからの説明や検討を進めた。

表 1 低コスト肥料と慣行肥料の成分量

銘柄	成分量(%)					低コスト肥料の特徴
	窒素			リン酸	カリ	
	総窒素	アンモニア態	尿素態			
低コスト肥料	20.0	10.0	10.0	12.0	10.0	高窒素で散布量が少ないため、省力化になることに加え、リン酸とカリ減肥で施肥コストと環境負荷の低減につながる。
A氏慣行肥料	12.0	12.0	0.0	16.0	15.0	
B氏慣行肥料	14.0	14.0	0.0	15.0	10.0	



カリの成分量が少ないが試験的にやってみよう!

表 2 施肥標準(土診結果から)と施肥量

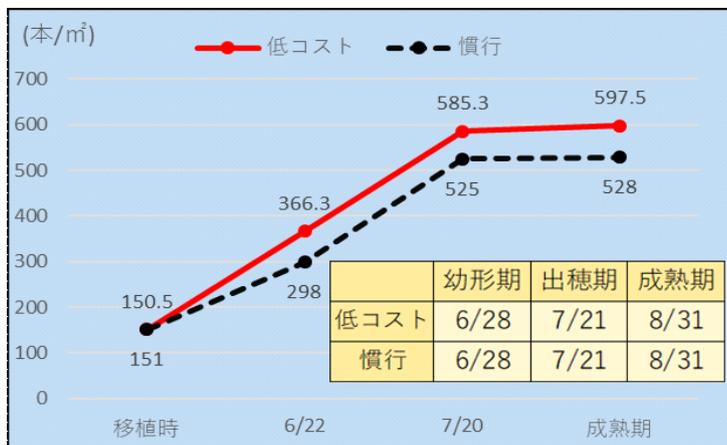
	窒素	リン酸	カリ
低コスト	8.4	5.0	4.2
A氏施肥基準	8.0	4.0	11.0
B氏施肥基準	8.0	4.0	8.0

懸念事項 1 : 尿素態窒素入りなので生育の遅れや、大出来にならないか!

懸念事項 2 : カリが施肥基準以下なので、収量に影響しないか!

懸念事項 3 : 生育の遅れで高タンパク米にならないか!

## 2 試験栽培結果



生育遅れは見られなかった!



図 1 調査区別の生育(茎数)及び生育期節(2戸平均)

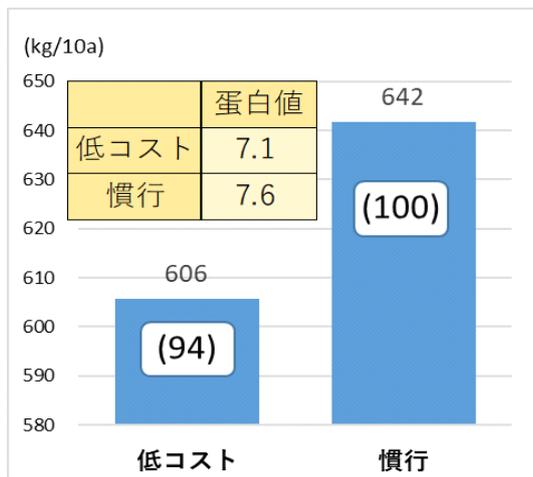


図 2 収量と蛋白質含有率(2戸平均)

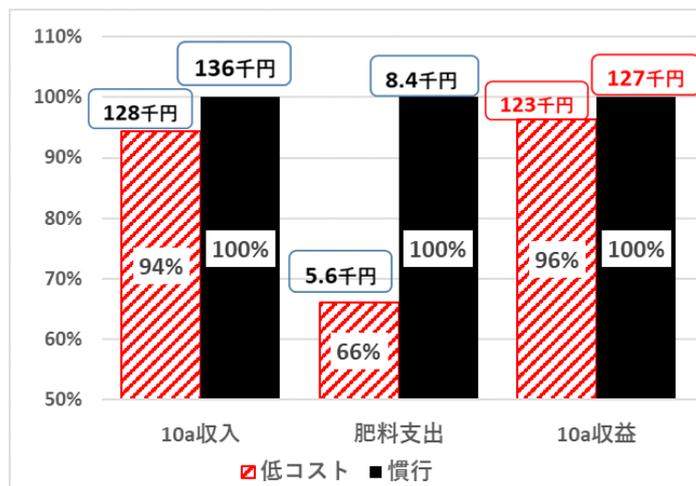


図 3 肥料別の収入・支出・収益(2戸平均)



高タンパクにならなかったが、収量は6%ダウンした(図2)。そのため、肥料費は34%減ったが、収益は4%減となった(図3)。

### 農業者の声

高窒素なので散布量が少なく、散布時間の削減になる。再度、試験栽培をしたい!



## 今後の対応

試験栽培農業者の意見で、「再度試験栽培をしたい」との声があったため、次年度も新規低コスト肥料も検討し、試験栽培結果から地域適応性について判断する。

# 畑作法人と取り組む担い手の育成

～未来の経営者を育成する～

対象：合同会社アグリサポート中の川 担い手6名

活動期間：令和5～6年度 本所地域第二係

## 活動の背景

### ＜地域の課題＞

- ・農家戸数の減少
- ・担い手不足
- ・種子用ばれいしょ生産の維持、継続



### ＜担い手確保を目的とした法人の設立＞

R2年種子用ばれいしょ生産農家などによる「合同会社アグリサポート中の川」が稼働

### ＜法人の担い手育成＞

- ・地域おこし協力隊
- ・後継者等
- ・新規参入希望者



### ＜支援①＞

畑作技術の習得と技術継承を目的とした研修会開催（R2～4年度）



### ＜支援②＞

次期経営者となる人材育成を目的とした研修会開催（R5～6年度）

## 活動と成果のポイント

### 1 実物を「見て・触って・感じる」～法人構成員のほ場を借りたフィールドワーク～

#### ＜フィールドワークの時期と内容＞

○4月12日

秋まき小麦ほ場

- ・茎数測定
- ・茎数に基づく追肥量の判断

○8月18日

大豆ほ場

- ・生育状況の確認と今後の管理
- ・ダイズシストの確認

ばれいしょほ場（2ほ場2品種）

- ・いもの付き方や大きさ、個数の違いを確認
- ・アブラムシ発生有無の確認



写真1 秋まき小麦の茎数測定



#### ＜受講生の声＞

○初めて見た。

○自分のほ場でも確認してみる！

○小麦の追肥はいつも硫酸だけれど、余っている肥料でも使えるのかな？



写真2 ダイズシストの確認

## 2 自分で「考えて・計算して・また考える」～新規作物の可能性と経営演習～

### ＜経営演習の時期と内容＞

- 9月 栽培してみたい（新規）作物の集約
- 11月29日
  - ・新規作物の栽培と特徴
  - ・新規作物導入による経営と労働変化の演習

### ＜受講生の声＞

- 計算は大変だったけれど、経営や労働がどう変わるのかがわかった。
- 家族みんなが健康で、長く働くためには労働時間が重要なんだね。



写真3 経営と労働変化の演習

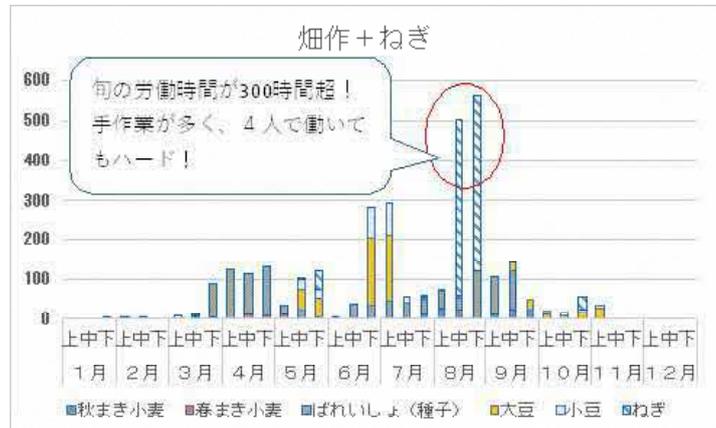


図1 新規作物導入による労働時間の変化例

## 3 挑戦したいことを実現する～緑肥展示ほの設置～

### ＜展示ほ設置までの流れ＞

R4年のある受講生のつぶやき  
「ダイズシストセンチュウ低減と有機物施用のために、緑肥を栽培してみたい！」



J A、法人、メーカーの協力を得て、  
受講生親のほ場で展示ほを設置

### ＜受講生の声＞

- 緑肥を初めて見た。
- は種量や品種で、生育や密度が違うね。



写真4 緑肥の根張りを確認

### ＜成果ポイント＞

- フィールドワーク～見て、体験することで自ら考え行動する意見を聞くことができた
- 経営演習～新規作物を考え、演習することで、経営や労働変化の考え方を理解できた
- 緑肥展示ほ～実践したいことの実現により、新たな挑戦に向けた機運を醸成できた
- 活動体制～法人やJ Aなど関係機関と連携しながら取り組むことができた

## 今後の対応

引き続き、法人や関係機関と連携しながら、若い担い手が学びたい事項を中心に、次期経営者としての資質向上に向けた支援を継続する。

# 園芸品目における地域に適した土壌病害虫の防除対策支援

～安定効果、生産性向上、環境・身体低負荷の「三方良し」による持続的生産へ～

対象：共和町4Hクラブ、メロン作付農業者1名 活動期間：令和5年度 本所地域第三係

## 活動の背景

### 【現場の実態】

- ・北海道有数のメロン・すいかの大産地(道内2位)
- ・長年の作付により土壌病害虫が散見され、生産性や収益性に影響を及ぼしている
- ・現場では抵抗性台木や殺線虫剤で対応



共和町内で発生が見られる土壌病害の例

### 【問題点】

- ・高密度条件では効果不安定
- ・慣行品種と異なる特性で難色示す
- ・種苗費増加により導入に躊躇う

### 【現場の要望】

効果の高い土壌病害虫対策が強く要望されている



### 【R4取り組み】

低濃度エタノール土壌還元消毒法を現地実証(1戸)



### 【活動の狙い】

- ①低濃度エタノール土壌還元消毒(以下「低エタ消毒」)実施ほ場の生育・収量等を評価
- ②導入事例の積み上げによるノウハウ等の蓄積と地域に適した低エタ消毒技術の改良
- ③町内行事の機会を活用した低エタ消毒に係る活動の積極的紹介による地域への波及  
→地域に適した土壌病害虫対策を築き、収量・品質の高位安定化と持続的生産を目指す

## 活動と成果のポイント

【成果：高い密度低減効果の現場実証で技術に対する信用と信頼性を構築】



写真1 JAとの合同調査の様子

→ 生育、収量・品質および経済性を協力して評価し、結果を常に共有



写真2 低エタ消毒前後の生育比較(左:R4.6月、右:R5.5月)

→ メロンの生育は著しく改善し、収穫まで草勢を維持できた



### 【低エタ消毒による収量・品質の向上と高い投資効果を提示】

- ・果実サイズは平均5.5玉となり、消毒前よりも肥大性が向上(データ略)
- ・5玉規格率が3倍となり、高単価帯の5～6玉割合と秀品率が9割に改善(データ略)



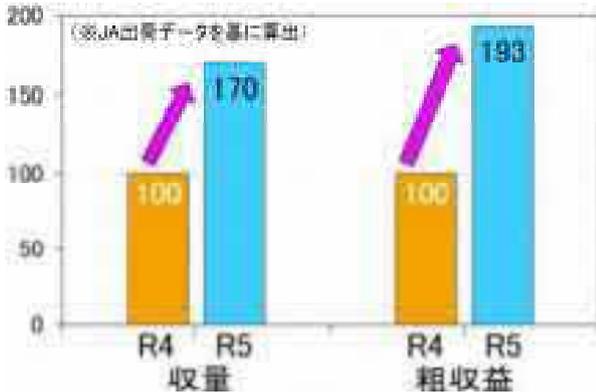


図1 低エタ消毒前後の10a収量と粗収益の比較  
→ 消毒前と比べて、収量・粗収益は大幅増加

表 低エタ消毒ほ場の経済性評価(6×120mハウス)

科目	金額(円)	備考
粗収益	1,034,270	R5実績 (6.0×120mハウス面積換算)
消毒諸経費	202,754	低エタ消毒に要した資材費
直接・間接経費	517,186	JAメロン類型より (ハウス無加温半促成作型)
利益	314,330	

→ 低エタ消毒を実施すると投資を十分に回収できる



低エタ消毒の高い効果に驚嘆し、本技術に対する信用と信頼性が一気に高まった！

**【成果:的確なターゲット設定、濃密連携、実証ノウハウ有効活用で安定した密度低減効果を獲得】**

〔的確なターゲット設定〕

土壌病害虫の被害に悩み、新技術に興味関心の強い若手農業者（4Hクラブ員）に導入提案



4Hクラブ員3名が名乗りを上げた！

更に、低エタ消毒を高く評価するJAからの提案で、1名が急遽実施することとなった

現地実証の成功には、関係機関との濃密な連携が必須。目的、方法や将来目標等を説明して合意形成を図り、実施に向けた協力支援体制を構築した

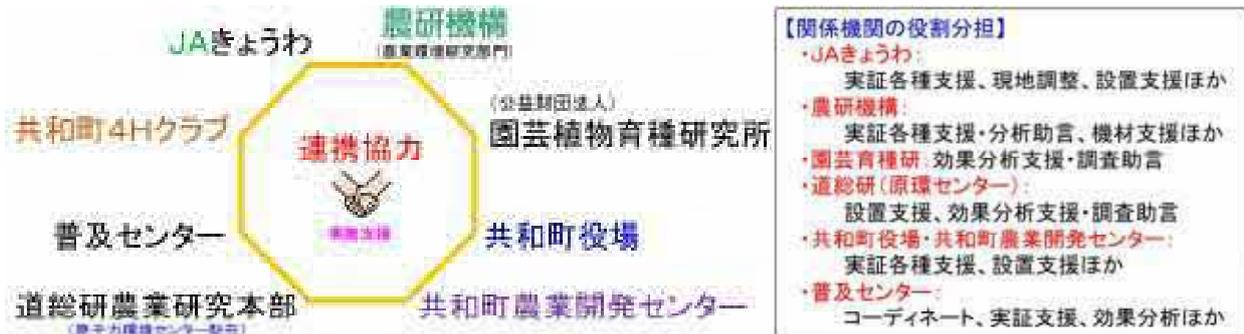


図2 土壌還元消毒の実証に向けた各関係機関の連携体制と役割分担



写真3 低エタ消毒実証ほ設置の様子(8/3)

→ 各々が濃密に連携しながら実証ノウハウを活用したことで、設置準備が極めて円滑に進み、安定した密度低減効果が得られた



写真4 消毒前後のFusarium菌密度変化(R5)

今後の対応

- ・本方法の実施導入を要望する農業者を関係機関と連携して支援していく。
- ・現場実施事例を積み重ね、地域に適した土壌病害虫の防除対策マニュアルの作成を目指す。

# 意欲ある担い手の育成と資質向上に向けた取り組み

～関係機関と連携した地域若手農業者の育成・支援～

対象：共和町4Hクラブ、新規就農者、地域おこし協力隊員 11名

活動年次：令和5年度 本所地域第三係

## 活動の背景

### 共和町4Hクラブ

- ・農業青年8名で活動。
- ・メロン、すいか作付経営体が多い。  
(土壌病害による収量減少に苦慮)
- ・会長職は1年間で交代(活動意欲にばらつきが生まれないようサポート)。  
～取り組み～
- ・低濃度エタノール土壌還元消毒法  
(以下「低エタ法」とする)の実践
- ・定期的な勉強会の開催 など

- ・青年農業者自身の資質向上
- ・クラブ活動の活性化

### 新規就農者・地域おこし協力隊員

- ・共和町で2名の新規就農者(1,3年目)。
- ・神恵内村の新規就農者支援事業の一環で地域おこし協力隊員による農産物生産が行われており、今年度で任期終了。  
～取り組み～
- ・栽培管理をはじめ営農に係るサポート  
(関係機関と連携)

- ・農業生産技術向上
- ・農業者としての資質向上

ねらい

## 活動と成果のポイント

### 共和町4Hクラブ

#### 【低エタ法の実践支援】



実践意欲が醸成され土壌病害に 展着剤の実演散布で防除における 悩むクラブ員3戸が意欲的に実施水量、付着度合いの重要性を理解

#### 【実演式勉強会の開催】



展着剤の付着性の違いがわかった!

学習を兼ねた定例会の開催

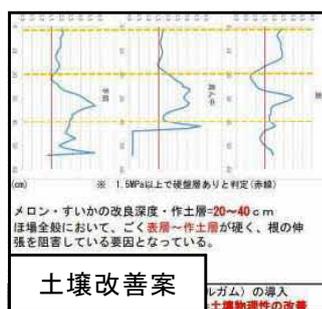
目標：4回

実施：5回

(到達度125%)



土壌硬度調査



「防除体系は適切？」  
「自分のほ場の土壌を調べたい」

クラブ員の自発的な要望に対応、改善策を提案

クラブ員が改善策を実践

自主的な課題解決意識が醸成され、学習意欲の向上が見られた。

## 新規就農者、神恵内村地域おこし協力隊員

### 【情報提供・農業生産技術向上支援】

#### 農業者 A (就農 1 年目)

使用時期	生育ステージ	対象病害虫	農薬名	系統	希釈倍数	使用時期・収穫前日数
7月	中 定 植 前	菌主処理 (アブラムシ、アザミウマ、ハモグリバエ)	ベリマクSC	ジアミド	400~800倍 25~50ml/株	育苗期後半 ~定植当日
	下 第1回剪定後	予防的防除 ハモグリバエ、ハダニ、 チョウ目	ダコニール1000 グレースイア乳	TPN フルキサメタミド	1,000倍 2,000倍	3日前 前日
8月	上	予防的防除 ハモグリバエ、ハダニ、 チョウ目	ベンコゼブFL アフアーム乳	マンゴブ マクロライド	500倍 2,000倍	7日前 前日
	中 着 果 前	つる枯病、うどんこ病 ハダニ、アブラムシ	ファンベル顆粒水 モバントFL	QOI+ビスグアニジン ネトロン顆	1,000倍 2,000倍	前日 前日
	中 開 花 中					
	下 着 果 確 認 後	つる枯病、うどんこ病 ハダニ アブラムシ類	バレードFL カネマイトFL モスピラン顆粒水	SDHI アセキノシル ネオニコチノイド	3,000倍 1,000倍 8,000倍	前日 前日 3日前

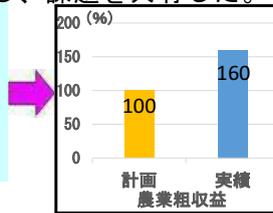


薬剤の特徴や性質を  
理解できた

関係機関を交え対面で資料を説明、提案する様子

メロン作型毎に防除体系案を作成するなど、栽培管理に関する相談には対策を資料化し、課題を共有した。

農業者 A  
「病害虫の発生を抑えることができ、通年できれいなメロンが出荷できた。」



農業粗収益  
→計画比の160%を記録

#### 農業者 B (就農 3 年目)

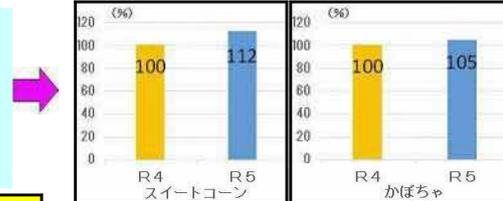


課題の抽出↓改善  
に向けた取り組み  
をすぐに実行

土壌断面調査による実態把握→改善策の提案

関係機関一丸でのサポート体制

農業者 B  
「土壌改良の取り組みやスイートコーン、かぼちゃの管理法を指導してもらった結果、前年以上の収量を上げられた。」



作物別の反収比較 (R 4 を100)

厳しい気象条件下でも前年以上の収量を達成

#### 神恵内村地域おこし協力隊員 (任期最終年)



関係機関との強固な連携でサポート



高い技術力を習得

野菜類：村内イベントですぐに完売  
米：村内の学校給食や贈呈品に

## 今後の対応

- ・共和町4Hクラブ: プロジェクト活動支援、定期的な勉強会の開催。
- ・新規就農者: 関係機関と連携した栽培管理支援(病害虫対策、土壌改良、適正施肥)。
- ・地域おこし協力隊員: 栽培管理に係る技術支援、情報提供を役場と連携して行う。

# 稲穂を加害する害虫に対する防除対策の構築と実証

～多発するイネキモグリバエとの攻防と攻略に向けた取り組み～

対象：共和町老古美地域 8戸 活動期間：令和3～5年度 本所地域第三係

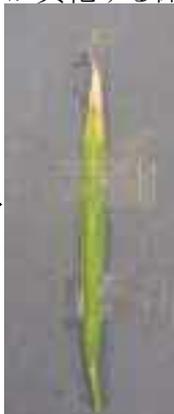
## 活動の背景

### 【イネの異変に気づく(R3)】

・7月中旬、稲の葉先が枯れる株や葉身の中央部分が黄化する株が多数見られた。



葉先枯れ、葉身の黄化症状(破線の丸印)



葉先枯れ症状 葉縁部と葉身中央部の黄化症状

### 【ボロボロに食い破られた穂が多数出現(8月)】

出穂後、激しく食い破られた穂が出現し、全く頭を垂れない状態となっていた。



頭を垂れない穂が多く見られる異様な光景  
収穫間際になっても棒立ちの状態であった



ボロボロの穂(傷穂)  
食害痕が多数あり



【参考】スズメによる食害痕  
くちばし

嘴で籾を強く挟むため、  
籾が破碎されてデンプンが  
飛び散って周辺が白くなる  
ので、傷穂と明確に異なる

### 【犯行現場から得られた証拠から犯人像をあぶり出す】

- ・ 止葉周辺の葉に、葉先枯れ症状や葉身中央に黄化症状が出現。
- ・ 傷葉を有する茎から、ボロボロになった傷穂が高確率で出現。
- ・ 水田周縁だけでなく、水田内部でも当該症状が多数見られる。
- ・ スズメの食害や、穂いもち症状とは全く異なる。



**「イネキモグリバエ」の仕業と断定**



スズメによる犯行と誤っていた  
農業者に真犯人を報告する様子

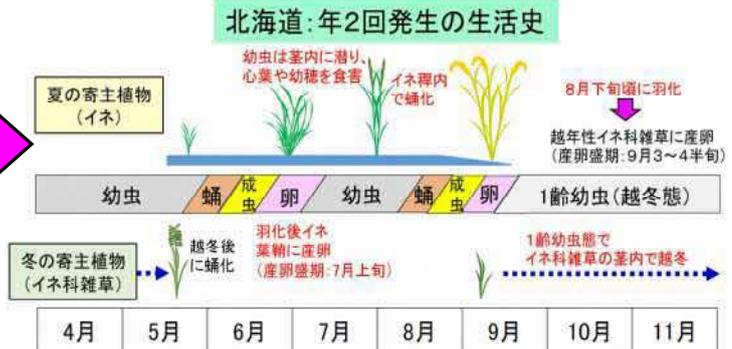
## 活動と成果のポイント

- 【活動目標】** ①地域におけるイネキモグリバエの被害状況と発生生態を確認する。  
 ②地域に適したイネキモグリバエの防除対策を構築する。  
 → **収量・品質の高位安定化を目指す**

**【成果: 詳細な現場調査から発生生態や加害の特徴を明らかにした(R4)】**



成虫すくい取り調査(6月下旬:羽化期)



共和町におけるイネキモグリバエの発生時期を確認



詳細な被害(傷穂)調査を実施  
併せて、メーカーと協力して薬剤試験を実施して防除効果を評価した

群上のレッドトップ群落(破壊域内)



レッドトップ群落(畦畔に発生)  
赤字:傷穂率(%)  
傷穂率=(傷穂数÷全穂数)×100

畦畔のレッドトップ(寄主植物)に隣接する株ほど激しく食害され、更にも被害分布は、ほ場内に“偏り”があることを突き止めた

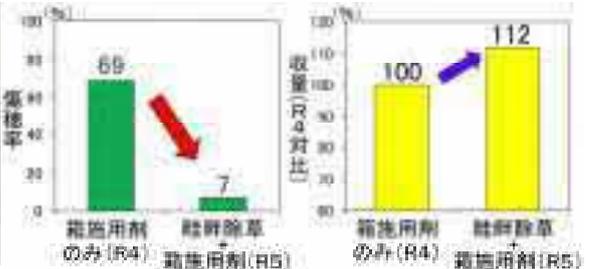
**【成果: 耕種的 + 化学的防除法の組み合わせで高い防除効果が得られることを実証(R5)】**



畦畔や法面に生えたレッドトップを徹底除草し、田植時に育苗箱施用剤を使用



農研本部・中央農試の協力を得て、加害状況等を詳細に調査した(7月)



耕種的 + 化学的防除法の組み合わせにより、被害量が著しく減少、収量も回復した

## 今後の対応

- イネキモグリバエの被害に苦慮する農業者への個別対応や講習会で本防除法を普及させる。

# 五の原地域を支える若手農業者の育成支援

～若手農業者とともに寄り添い、悩み・学ぶ担い手活動～

対象：留寿都村五の原地域 10戸 活動年次：令和3～7年度 本所地域第四係

## 活動の背景

### 地域の概要

村内平均作付面積：19ha  
地区平均作付面積：25ha

野菜の面積割合：28%  
根菜類の面積割合：65%

経営主の平均年齢：57才  
20～30才の後継者：6名

### 課題

村内でも作付面積が多い

野菜類、根菜類の作付面積が多い

地域の担い手が多い

### 活動のねらい

#### 【基幹作物の安定生産】

- ・小麦の安定生産
- ・ながいもの安定生産
- ・土壌病害対策の検討

#### 【地域担い手の育成】

- ・担い手資質向上支援

## 活動と成果のポイント

### 1. 家族、担い手と合意形成と今後の活動を検討

継続的な活動により、家族からの理解と協力を得た活動になっている。

自己課題とばれいしょ「きたかむい」の実態調査を計画した。



写真1 本年の活動協議

### 2. 研修会の開催



写真2 ばれいしょ「きたかむい」の実態調査

なんで株間がそろわないのか？分からないことが、まだまだいっぱいある。どうしたらよいのか？

さつまいも、興味があり作ってみようかな。まずは情報収集をしよう。

基幹作物のばれいしょとながいも、新規作物さつまいもの知見を広げる。



写真3 さつまいものほ場視察

### 3. J Aと連携しながら活動



写真4 J A担当者も参加した  
展示ほ場の設置

関係機関が協力して  
課題を共有することで  
効率的に課題解決できる。

みんながほ場を確認して  
くれるので、安心して試験  
ができる。

地域に展示ほを設置し、J Aなど関係機関とも連携し  
ながら、地域の課題を共有し、解決にあたった。



写真5 関係機関とながいのもの  
施肥方法を検討

### 4. 自己課題の設定



写真6 「きたかむい」の実態調査

みんなやっていることが少し違  
うんだね。  
もっと細かい確認をしてみたい。

表1 自己課題の取り組み状況

年度	自己課題	
	設定 実施	まとめ
R 3	2	2
R 4	3	2
R 5	6	5

\*取り組み農業者数

全戸で自己課題の取り組みが始まった。  
今後は「きたかむい」の技術改善を行う。

### 5. 真狩村との情報交換



写真7 加工用ばれいしょの視察

留寿都ではやっていない品  
目だから初めてみた。  
いつか作るかも。

なかなか見られない  
失敗事例はいろいろな  
勉強になった。



写真8 失敗事例を共有

真狩村の農業者との交流・ほ場視察を実施した。  
新たな知見を得ることができた。

## 今後の対応

#### 基幹作物の安定生産

- ・ばれいしょの安定生産技術
- ・ながいも安定生産技術

#### 地域担い手の育成

##### 担い手資質向上支援

- ・ばれいしょ「きたかむい」の栽培改善に向けた支援
- ・研修会 ほ場巡回 青空教室